

令和5年9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

続・廃寺になった寺々

平成10年9月15日発行の文化財ニュース「廃寺になった寺々」は、旧調布村エリアの廃寺を解説した記事で、青梅市郷土博物館のウェブサイトにてバックナンバーを読むことができます。今回は、続編として旧上師岡村・旧南小曾木村小布市・旧北小曾木村エリアの廃寺についてそのいくつかを見ていきたいと思います。

まずはじめに、青梅市内の廃寺について青梅市史下巻 823 頁表 1 「市内廃寺一覧表」を参考にしました。市内の廃寺の数は明らかになっているもので 56 ヶ寺あり、数は多いです。今回は根ヶ布の天寧寺と関係の深い廃寺に絞りました。

それでは「廃寺とは何か」というところから始めましょう。廃寺とは「住僧もなく荒れ果てた寺。寺を廃すること。」を指します。またこういうケースもあります。下成木村中里にあった長泉院（下師岡村の曹洞宗妙光院末）は、目黒区中目黒の浄土宗長泉院として現存していますが、これは寛永 8 (1631) 年の新寺建立禁止令以降、寺院を新しく創建できなくなったため、既存の寺院を別の場所へ引越して新堂宇を建設することで実質的な新寺の建立を行う「引寺」という手続きをとっています。宝暦 11 (1761) 年に無住（住職がないこと）だった中里の長泉院を、増上寺の所領があった目黒へと引寺し、浄土宗の寺院として創建しています。近郊においては、享保 19 (1734) 年に瑞穂町長岡の新田開発のため奥多摩町大丹波の東善院を引寺した例があります。

さて、話を廃寺に戻しましょう。今回対象の廃寺をリストアップします。

<上師岡村>

- ①勝沼山竜寿寺 曹洞宗天寧寺末 大塚山南麓
- ②清滝山万慶院 曹洞宗天寧寺末 江戸期の天寧寺史料では「萬慶庵」の表記多数
現在の勝沼城跡付近に所在か

<南小曾木村小布市>

- ③能満山海蔵院 曹洞宗天寧寺末 現小曾木 1 丁目自治会館

<北小曾木村>

- ④岩井山保福院 曹洞宗天寧寺末 字岩井。旧青梅第十小あたり
- ⑤馬頭山竜谷院 曹洞宗天寧寺末 字立谷。近くに墓地あり
- ⑥平岩山慈雲院 曹洞宗天寧寺末 字赤仁田。神明神社東麓

これら 6 ヶ寺が廃寺になったのはいつ頃なのか史料を調べてみましょう。

『検地帳』寛文8(1668)年

①②⑤⑥について記述あり。南小曾木村の検地帳は現存せず。

『新編武蔵風土記稿』文化・文政期(1804-1829)に調査及び編集

①②③④⑤⑥全て記述あり。

『新町村名主吉野家文書』明治9(1876)年10月11日

新町村鈴法寺、師岡村龍寿寺・萬慶庵他11ヶ寺の本寺並びに最寄寺院に対し該当寺院の過去における統廃合について年月日等詳細を調べ、本月20日までに提出せよとの通達が出される。

『皇国地誌・西多摩郡村誌』明治10～13(1877～1880)年頃調査及び編集

①②師岡村誌に記述無し。

③南小曾木村誌に記述あり。

④⑤⑥北小曾木村誌に記述あり。

『寺籍財産明細帳(天寧寺蔵)』明治19(1886)年頃調査編集

③④⑤⑥が記述あり。

『曹洞宗寺院名鑑(国書刊行会)』大正2(1913)年発行

③④⑥が記述あり。

⑤は既に引寺され新潟県湯谷村(現魚沼市)の同名寺院として登録されている

『全国寺院名鑑(全国寺院名鑑発行所)』昭和5(1930)年発行

③のみ記述あり。

上記史料を検証した結果、①竜寿寺と②万慶院は、明治9年において書類の上では存在しているものの事実上はすでに本寺天寧寺に吸収され廃寺になっていた可能性が高いのです。続いて北小曾木村の⑤竜谷院は明治20(1887)年から大正2年にかけて新潟県魚沼市へ引寺され北小曾木村の曹洞宗蜷澤院と合併、④保福院⑥慈雲院は大正2年から昭和5年に間に蜷澤院と合併し廃寺となります。そして③の南小曾木村の海蔵院ですが、前述の5ヶ寺が平僧地・庵地(曹洞宗の寺格。葬儀等でできることに制限がある)であるのに対し、法地という高い寺格を持ちながら廃寺になっている珍しいケースにあたります。これについては、「市川家日記」で詳述されているように安政6(1859)年3月1日の大火事で堂宇が全焼し、その再建費用捻出のために寺持ちの山林を売却せざるを得ず、結果として住職の食費などに充てる収入源を喪失し、明治16(1883)年には無住になってしまったところに一つの原因があるようです。

地域の人たちにとって集落の信仰の拠点を失うことは不本意な出来事であります。しかし、集落の経済構造の変化や災害被災等により維持が難しくなり、「住僧もなく荒れ果てた寺」は明治維新を境に近隣寺院との合併や神葬祭への移行などゆるやかに整理・統廃合が進められていきました。

(文責 沖 祐昭)